

# 努力結実 決意新た

甲府・山日YBSホールで3日に開かれた第38回野口賞贈呈式。受賞者はこれまでの歩みや受賞の喜び、今後の目標を語った。要旨は次の通り。

野口賞受賞者  
喜びの声

## 郷土研究

### 島袋善弘さん 史料に導かれ歴史検証

受賞に大変びっくりしている。きっかけとなった著作は、山梨の郷土史研究から日本の近代を見直してみようと執筆した。研究の端緒は約40年前、山梨県立女子短大(現山梨県立大)に着任し、県議会史や県史の

編纂へんさんに携わったことだった。県の農地改革について調査する中で、小作争議の状況や背景を検証した。山梨に來たこと、良い史料に巡り合えたこと、偶然の積み重ねが受賞に結び付いたと考えている。



## 体育・スポーツ

### 山梨学院高男子駅伝部

### さらなる高みを目指す

高校3年間でなんとしても全国制覇を成し遂げ、大学に進学したいという思いがあった。その目標をチーム全員が持って日頃の練習、寮生活に取り組んだ。学校の支援、両親の支え、地域の方の声援が力になり、

持っている以上の力を本番の舞台で発揮することができたと思う。今は山梨学院大へ進学し、陸上を続けている。優勝という結果におごることなく、さらなる高みを目指して努力していきたい。(西山令前主将)



## 芸術・文化

### 保坂紀夫さん 山梨の竹林 感性に影響

竹のアートを始めた当初は、美術界ではマイナーな存在で苦勞もあった。だからこそクリエイティブであると考え、一筋にやってきた。活動を目に留めて評価してくれたことがうれしい。生まれ育った山梨には竹

林が身近にたくさんあり、その環境が美術に進む感性に良い影響を与えてくれたと思う。竹という素材は、修練を積んで感性を磨けば、必ず能力を発揮してくれる。応援してくれる人たちに報いるよう頑張りたい。

